

斎宮こぶしの杜などに認定証

「自然共生サイト」名古屋で授与式



小森所長(右から2人目)から認定証を受け取った自然共生サイトの申請者ら＝名古屋市守山区の金城学院大で

松阪・八柱神社にも

民間の取り組みなどによって生物多様性の保全が図られる区域を環境省が認定する「自然共生サイト」の認定証授与式が3月27日、名古屋市守山区の金城学院大で開かれた。愛知、三重両県の5カ所が認定を受けた。

(片岡典子)

自然共生サイトは2023年度に始まり、全国の328カ所、計9・3万㍓が認定されている。この日は、中部地方環境事務所の管内で認定された愛知、三

重両県の5カ所の関係者に小森繁所長が認定証を手渡した。

このうち「八竜緑地・金城学院大学の里山」(同区)は、過剰な伐採ではげ山状態だった時期もあったが、シデコブシやオワリサンショウウオなど希少な動植物が生息する環境が守られている。

「斎宮こぶしの杜 三重ブラザー」(明和町)には希少な植物のほか、カワセミなども姿を見せる。緑地内に侵入する竹や特定外来生物の除去などで保全に取り組むブラザー工業(名古屋瑞穂区)の川野絢子チーム・マネジャーは「人も生き物も楽しめる森をつくるため、活動を継続、活性化していきたい」と意気込んだ。

他に「愛三豊田の森(西広瀬工業団地緑地)」(愛知県豊田市)、「こじま苑」(同市)、「八柱神社―田引の八柱さん―」(松阪市)が認定された。